

社会保険労務士からの三方一両得だより

令和7年5月20日 第188号

大阪城に行ってきました

大阪城の石垣は高さが32mあるという話を聞きまして、「いやいやそんなに高いなんてことはないだろう」と思ったので確認に行ってきました。勢いで航空券を予約してから調べてみると、32mというのは基礎部分を含んでおり、堀の水面からの高さは24mほどだそうです。それでも十分な高さですから、楽しみにに行ってきました。ちなみに、この時には大阪万博のことは完全に忘れてましたので、お城だけ見て帰ってきました。勿体なかったですね。



右奥の石垣と同じ高さから撮影

大きな石垣の前に到着して見上げると、確かに大きいのですが、予想していたような迫力がありません。なんでかなと考えてみると、自分も結構な高さの石垣の上から見上げていることが分かりました。さらには堀の幅が広くて石垣まで距離があるのも、一因のようです。

お城の反対側では水面にぐっと近づきましたので、こちらの方が高さを感じました。

最初の角度からしか見ていなければ、大したことないという感想だったと思います。

また全く知らなかったのですが、現在の石垣は徳川幕府が作ったもので、大坂冬の陣夏の陣当時の石垣は、完全に内部に埋められてしまっているそうです。いろいろなことに興味を持つと、関連情報が入ってきて知識の幅が広がっていいですね。



水面から3m程度の高さで撮影



ジャガイモの花が咲きました。

少しだけ苗づくりが成功したキャベツとブロッコリーは、畑でグングン育っています。トマトは何か苗が間に合いませんが、ナスとピーマンはダメなので、ホームセンターで苗を買ってきました。カブとスナップエンドウ、タマネギの収穫がスタート。オクラの種まきをして、サツマイモの苗を植えました。カボチャ、とうもろこし、エダマメは順調です。種まきしていない青シンの芽も、例年通り勝手に出てきました。

我が家の畑

年金改革法案から削除された基礎年金

底上げ策とは何だったのか

5年に一度の年金改革法案の中で柱とされていた基礎年金(国民年金)の給付額底上げが、法案から削除されました。この基礎年金底上げ策は、将来の低年金が不安視される就職氷河期世代があと10年ほどで年金の支給開始となる65歳に達するため、厚生労働省で対策が検討されていたものです。



◆基礎年金底上げ策とは

すべての人が受け取る基礎年金は財政状況が悪いため、将来は3割目減りします。老後を基礎年金に頼る自営業者や、低所得の会社員らが困窮するリスクがありました。そこで会社員らが上乗せで受け取る厚生年金を減額して財源をつくり、国庫負担(税金)も投入して基礎年金を底上げするのが、基礎年金底上げ策でした。

しかし、自民党から7月の参院選への影響が大きいと反対論が拡大し、法案から削除されるに至りました。

法案に盛り込まれなかったその他の低年金対策として、基礎年金の保険料の納付期間を60歳から65歳までの5年間延長する案があります。年金額が年10万円増える案でしたが、保険料負担が計100万円増えることへの国民の反発が強く、厚生労働省は2024年7月に断念しました。

パート労働者の厚生年金への加入拡大案は、法案に盛り込まれましたが、保険料を半分負担する事業主への配慮を求める自民党の要望により、拡大完了の時期を2029年から2035年まで先送りしました。

厚生労働省の考え方は「年金改革はゼロサムゲーム」というもので、恩恵を受ける人がいれば、必ず誰かの負担が増えたり給付が減ったりします。低年金対策として誰かの年金を削ることが必要なら、その妥当性を国民に丁寧に説明する必要があるでしょう。

という記事なのですが、ご存知のとおり年金は制度が非常に複雑で、いくら丁寧に説明したところで一般の国民が納得することは絶対にはないと思います。年金の専門家のはずの私でも、かなり怪しいものです。誰も損をしないようにすると、増税で国庫補助を増やす必要があります。正解は分かりません。